

答 辞

桜の蕾も膨らみ始め、暖かな日差しの中に春の訪れを感じる季節となりました。

本日は学長先生を始め、諸先生方、ご来賓の皆様のご臨席を賜り、私たち卒業生のために、このような式典を挙げていただき、卒業生一同心より御礼申し上げます。皆様からいただいた祝福と励ましのお言葉を胸に、新しく始まる人生の第一歩を、大きな夢と希望を抱いて踏み出そうと決意しました。

二年前の春、私たちは新たな学生生活に、それぞれの期待と不安な気持ちを抱きながら、入学式を迎えました。入学当初は、高校までの生活や環境とは異なり、何もかもが新しく、不安や戸惑いが沢山ありました。しかし、学生一人ひとりに温かく丁寧に接して下さる先生方や、同じ夢を持つ仲間との出会いにより、充実した楽しい日々を送ることができました。

私にとって、この女子短期大学部で過ごした二年間は、私の人生の中で最も濃く、保育者という夢を実現する上で大変貴重な時間となりました。日々の講義では、保育の専門的な知識や実践的な技能を身に付けることができよう、多くのことを学びました。また、自分で考えたり、グループ学習をしたりすることで自分の考えの幅が広がったと実感しています。

学外オリエンテーション、グループワークキャンプ、ハロウィン、体育祭といった数多くの行事や実習、サークル活動といった様々な経験をすることができ、良い思い出として心に残っています。

特に実習では、短大での学びをより深め、更に多くの学びを得ることができました。講義で学んだことを基に準備を進め、実習に臨みましたが、子ども一人ひとりに合わせた援助の難しさや状況に合わせた判断力、対応の仕方に戸惑うことが沢山ありました。しかし、子どもと関わりを深め、先生方からの助言をいただいたことにより、ひとつひとつ乗り越えることができました。実習を通して、私は子どもたちの成長を支え、その成長を共に喜ぶことができる保育者になりたいと強く思うようになりました。

先生方からは、日々の講義で貴重なお話をいただきました。それらのお話は今後、私たちが人生を歩んでいく中で、大きな支えになると思います。講義以外でも、研究室を訪ね、様々なお話をしたり、時には悩みを相談したりすることもありました。先生方はいつでも励ましの言葉や背中をそっと押してくれるような言葉を掛けてくださいました。親身に接して下さり、最後まで熱心にご指導くださった事に心から感謝しております。

さらに、二年間の学生生活で、大切な仲間に出会うことができました。様々な行事では、各クラスの豊かな個性が発揮され、全ての行事が忘れることのできない大切な思い出となりました。行事で仲間と協力して、一つのことを成し遂げた際の達成感や味わった感情は、今でも鮮明に覚えています。また、充実した一年間を過ごすことができたのは、考えや気持ちを共有できる友人の存在があったからです。嬉しい時には自分のことのように喜び、挫けそうな時にはいつも側で励まし、温かく見守ってくれた友人に心から感謝しています。本当にありがとうございます。慣れ親しんだこの学び舎で、毎日会えることが当たり前になっていた皆さんと、今日で会えなくなると思うと寂しい気持ちでいっぱいです。

そして、卒業を迎えたこの日まで、私たちを支え、見守り続けてくれた家族に心から感謝しています。今の私たちがあるのは、家族が一番近くで夢を応援し、私たちの味方になって支えてくれたからです。今まで沢山迷惑を掛けましたが、これからは社会人として精一杯努力し、責任を持って生きていこうと思います。今まで本当にありがとうございます。

二年間の学生生活を振り返ってみますと、この日を迎えるまで、自分一人の努力だけではなく、多くの方々から支えていただきました。これからは私たちにとって本当のスタートです。辛いことや挫けそうになることもあると思いますが、今まで支えてくださった方々への感謝の気持ちを忘れずに、そして、学生生活の日々を糧とし、自分らしく歩んでいこうと思います。

最後になりましたが、作新学院大学女子短期大学部のこれからの益々のご発展と、学長先生を始め、教職員の皆様のご健康、在学生の皆様の更なる飛躍を心よりお祈り申し上げ、答辞とさせていただきます。

令和二年三月十五日 作新学院大学女子短期大学部
卒業生代表 大和田 真由

